片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-0101
小千谷市片貝町10367-4
TEL　0258-84-3246
FAX　0258-84-2632
編集発行人　吉原芳郎
印刷所　吉原印刷㈱

題字　黒崎敬湶氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

本物顔負けの鋭い質問

中学生によるあすなろ議会

黒崎さんと吉原君が登壇

市は初めての企画として中学生を一日市議とする〝あすなろ議会〟を16日、市役所で開催した。

議員数は〝本物〟と同様23名。片貝中からは五十嵐恵佑君、吉原佑君、黒崎祥子さんの3名が一日市議となった。市政に対する一般質問は15名が行ない、片貝中からは黒崎さんが10番目、吉原君が15番目に登壇した。

終了の挨拶で関広一市長は「それぞれよく考えた質問でビックリした。皆さんの中から将来、本当の市議、市長となる人が現われることを期待している」と講評が述べられた。

黒崎さんと吉原君の質問と、関市長の答弁の要旨は次のとおり。

黒崎さん

ゴミの分別について。市は平成10年4月から、細かいゴミの分別をスタート、片貝町ではゴミ袋に名前を書いて出しているが、中にはルールを守っていない人もいる。市がゴミの分別の必要性、有益性をもっとPRすれば、守る人が多くなると思う。市ではどのように市民にPRしているのか。

関市長

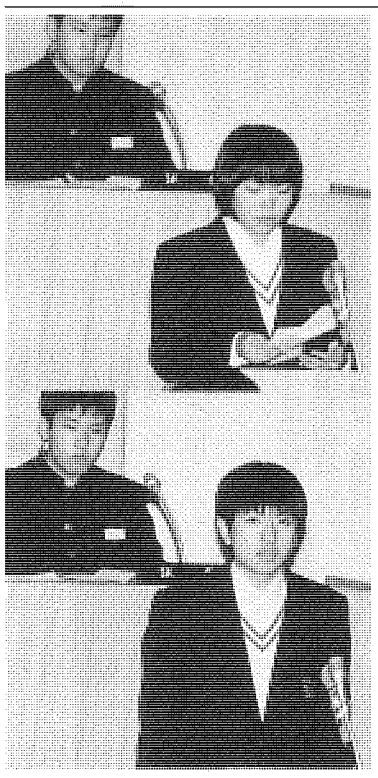
ゴミのリサイクルは大変重要なことで、資源の有効利用になるし、木津大原にある最終処分場の延命策にもつながる。このため市では、分別の周知徹底を図るため、各家庭に「ゴミの分け方、出し方」「ゴミの収集計画表」を配布。また市報おぢやを活用して注意事項をPRしている。今後も、市民に関心を持っていただけるよう努力して行きたい。

吉原君

障害者の安全について。高齢化社会の今、市内の施設はどのような対処を行なっているか。中心区域だけでなく他の地域にも施設を設置すべきだ。点字ブロック、スロープ、障害者専用トイレをもっと多く作るべき。

関市長

当市の高齢化率は22・3%で、全国平均の16・5%を大きく上回っている。当市では特別養護老人ホーム「小粟田の里」、老人保健施設の「水仙の家」「春風堂」、市立の「養護老人ホーム」などの入所施設がある。サンラックおぢやでは、ホームヘルパーの派遣やデイサービスセンターなどを行なっている。今、真人芋坂に「南部福祉センター」を建設中である。これからの歩道建設には点字ブロック、段差をなくすことを心がけてゆく。トイレも今後は障害者用を併設したい。若い皆さんのアイディアを聞いて、お年寄りや障害者を大切にするまち作りを目指したい。



主張

税について考える

税を知る週間が去る十一月十一日からあり小千谷税務署管内でも各種懇談会や啓蒙運動が行なわれた。特に最近税金滞納者の増加、景気低迷の影響で消費税を滞納する人が目立ち、これら滞納者の未然防止や額の圧縮が急務の課題となってきたこともあって、納税意識の向上や税を知ってもらう趣旨から中学生を対象とした作文や標語の募集が行なわれ、入賞者に対し表彰が行なわれた。

今回は片貝中学校勢の活躍が目立ち優秀賞に山口亜希さん優秀に石上麻衣子さん、佳作吉原祐君ら個人入賞のほか税についての作文募集活動が積極的であったということで片貝中学校にも感謝状が送られたが、とかく暗い話の多いなか町民ともに喜びたい。

税金というと嫌われ勝で時によっては目の敵にされかねない。さりとてこれなくして生活の基盤が成り立たず、この際我々も税について考えてみたい。

このところ大型倒産もあって長岡を中心とした中越地区が最も不況感が強く、まだ工場閉鎖やリストラといった最悪の環境にはないが、労働保険などで辛うじて支えられておりかなり深刻な状態に見える。

法人事業税は全国二五〇万法人の三分の二が赤字法人ということで税を納めておらず、小千谷市の財政をはじめ自治体の財政を逼迫させている。また個人の課税最低限は五百万円近く米国の三六一万円、英国一九五万円をはるかに上回り先進国中最高の水準だという。もともと税は公平でなければならないが、現在のように税引き後所得の標準化では、寝ずに仕事を強いられる文筆家やタレント、スポーツ選手のように短期間しか通用しない職業の人にとっては全くの酷税で、本来人間は機会の平等を求めるべきで、税ばかりでなく結果平等の今日では働く意欲を失わせかねない。さらに戦前の事業家のように社会に対する寄付や奉仕といった慈善行為すらも阻害される悪平等で、このままにしておくと社会主義国と同様崩壊する恐れもある。

問題の介護保険にしても手厚い給付を受けるに超したことはないが、あまりにも高額な掛け金は考えもので、どの程度が適当か市や政府に委ねるだけでなく我々自身が問われる時にきている。所得税を減らしその分消費税でという意見もあるが所得税を払ってない人が三割もある。或大学教授の指摘した「よほどの生活困窮者でない限り一定の税金を払うのは国民の義務として当然」とする欧米諸国の税制も一考すべきで、所得税の上限を一〇%とすれば低所得者に配慮しても立派に成り立つという。どうも昨今の税制に対するマスコミの論調をみていると、税金も払わず税金を使った扶助金等をもらってる人が減税反対を叫んだり、低所得者であることを特権のごとく要求ばかりしている。アメリカン・ドリームではないが頑張ったら俺もああなれる……という夢の持てる社会の実現を期すほうが余程不況には強いように思うがどうだろうか。

納税表彰式で作文・標語

片貝中が感謝状受ける

山口さん、石上さん、吉原君も

税を知る週間（11月11日～17日）中の15日、サンプラザで納税表彰式が挙行され、片貝中学校の3名が表彰、学校として感謝状を受けた。

「中学生の税についての作文」で山口亜希子さん（2年）の「税を考える」が、新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞、石上麻衣子さん（2年）の「私と税金」が小千谷市長賞優秀となった。「中学生の税に関する標語」で、吉原佑君（3年）の「納税の義務を守って国造り」が関東信越国税局長賞佳作となった。

また、税についての作文募集活動功労として、片貝中学校が全国納税貯蓄組合連合会長から感謝状を受けた。

文芸おぢや

優秀作品まとめる

市立図書館は、短歌、俳句、川柳、詩の4部門で作品を募集、このほど優秀作品を冊子「文芸おぢや第十九号」にまとめ発行した。片貝町関係の各部門入賞者は次のとおり（敬称略）

【短歌】▽特選＝黒崎与志越（町裏一区）「シルバーのマーク貼りし吾が愛車規則厳守と声かけて乗る」、「蝉の羽化同じ帽子は兄弟か口に指立て目を輝かす」、佐藤裕子（一之町五区）「麻痺さめぬ病室夫の来たらしい機械油の臭い漂う」▽佳作＝浅田砂智子（五之町）、山口キヨ（一之町二区）

【俳句】▽特選＝吉原セツ（一之町二区）「火の尾曳き昇りゆくなり大花火」、佐藤裕子（一之町五区）「廃

スリーラッキーズAが優勝

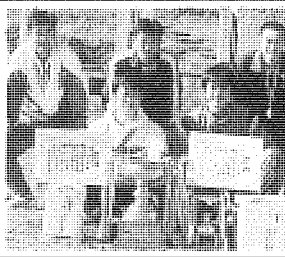
晴天の下町民駅伝盛会

第20回片貝町駅伝大会が11月14日(日)午前10時片貝小グラウンドスタート、ゴールで開催された。

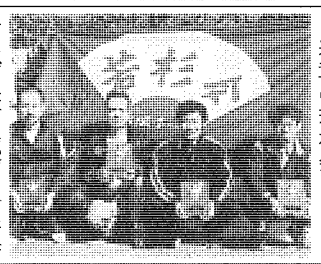
今年もコースは例年と同じく第1区＝片貝小学校グランドスタート～JA片貝町鴻巣支所迄2.5km、第2区＝片貝山屋バス回転場付近迄2.2km、第3区＝JAスタンド迄2.3km、第4区＝安達工務店前迄2.6km、第5区＝片小グランドゴール2.4kmの5区間12kmのコースで行われ、当日は絶好の駅伝日和に恵まれ、25チームで10才から76才の選手138名が健脚を競いあった。チーム平均年令62.4才で総合19位の片貝走友会のメンバーで、今大会最高年令の松下宣久さん（76才、町裏）は「まだまだ若い者に負けられません。来年も参加します」と元気よく語っていた。

また、第20回大会を記念して、今年総合17位で連続19回出場の若杉会の選手全員にJA片貝町友田明石組合長より記念の楯が手渡された。若杉会は同級会チームとして、第2回大会より毎年参加し、今年還暦を迎えたチームの第1走者溝手勝次さん（稲場）と第5走者安達保男さん（五之町）の2人は第2回大会より連続出場で、まだまだ記録は続きそう。なお、今大会は常勝チームの強豪片貝中学校チームを敗り、しかも昨年より2分も早くゴールした、スリーラッキーズAチ

◀一斉にスタート



◀優勝のスリーラッキーズA



◀19回連続出場で特別表彰の若杉会

今年最後のリサイクル

集めたり一八、七三八キロ

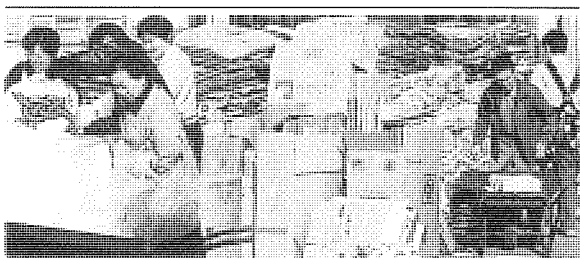
資源の再利用とゴミ減量を訴えて、町民に協力を呼掛けて4月から11月まで月一回第一日曜日にリサイクル業をきめてひとりの夏終る」

▽佳作＝長谷川渓雪（一之町五区）、黒崎与志越、小栗正和（一之町五区）、佐藤裕子

【川柳】▽佳作＝佐藤裕子、黒崎与志越

活動を実施している「リサイクルかたかい」では去る11月7日(日)午前9時～9時30分まで片貝支所前で今年最後のリサイクル活動を行った。

当日天候にも恵まれ会場の支所前は、新聞紙、ダンボール等でリサイクル品の山、ボランティアに訪れた、吉井協議会長もいつもより多い量に驚いていた。尚、平成11年度（4月～11月）の資源回収量は、▽新聞紙＝五千九十kg、▽雑誌＝四千三百kg、▽ダンボール＝八千百五十kg、▽ボロ＝七百九十kg、▽発砲スチロール＝四百八kg、合計で一万八千七百三十八kgものリサイクルをしたことになり、ゴミ減量化に貢献。リサイクルかたかい代表の吉井民子さんは「今年一年間のご協力ありがとうございました。来年度は4月からリサイクル活動を実施する予定ですので、よろしくお願い致します」と語っていた。



かたかい春秋

早いもので、月めくりのカレンダーが残り一枚となってしまった。物があふれ、豊食ならぬ〝飽食〟の時代といわれて久しいが、それでもこの時季になると、我々雪国の人間は、冬に備えて秋野菜を〝囲む〟作業風景が見られる。▼もっとも、スーパーに行けば一年中の野菜に不自由することなく、ましてや大根、白菜、長イモなどいつでも容易に手に入り、コンビニでも漬け物は売っている時代であるから、若者にとっては、この冬に備えて野菜を囲む、という言葉さえ通じなくなっているのではないか。各家庭での大根干しといった風物詩も、近き将来見られなくなってしまうかもしれない。▼今月号に掲載しているが、中学生が一日市議となっての「あすなろ議会」が去る15日に開かれた。日刊紙でも「大人顔負け」「鋭い質問」等すこぶる評判が良く、関市長も「近頃の若者は…」とかく言われているが、どうしてどうして、中学生の一般質問は的を射ており、素晴らしかった」と賞讃の弁であった。片貝中の生徒二人も登壇、堂々とした一般質問を展開した。▼納税表彰式でも片貝中学校が、脚光を浴びたようである。長びく不況が影響して、税金滞納者が増えているとのこと。それも消費税が酷いらしい。消費者から受け取っておきながら、経営難や資金繰に困り、使用してしまい、国に納められなくなってしまうのだ。消費者にとっては何とも腹の立つことで、このまま放置すれば納税制度及び納税義務精神を揺るがしかねぬ問題であり、ゆゆしき事態である。▼一年の総しめくくりの月である。終わり良ければ全て良し。何かと気忙しい月ではあるが、お互い事故や健康に留意して乗り切らんことを。

JA片貝町などが強い要望
そばを地域振興作物に
県が視察して明るい見通し

国は平成12年度から新しい生産調整対策を開始すべく、大豆、麦、飼料作物を転作奨励する方針を打ち出しているが、地域の特性を考慮した地域振興作物も奨励作物並みの助成金交付を行なうと伝えられている。

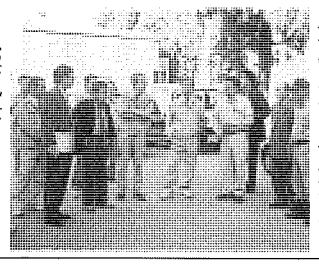
この情報に基づき、JA片貝町は早くから、そばを地域振興作物に指定してほしいと各方面に働きかけてきた。市当局もJA片貝町の強い要望を受け、またJA小千谷市も同様の意向であることから、両方JAとタイアップして県に対し積極的に働きかけていた。

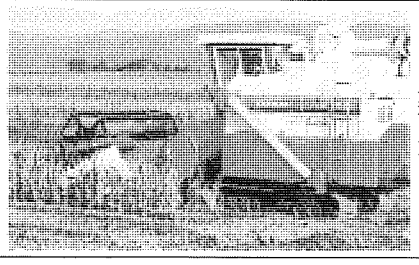
県もこの働きかけを受け、去る10月25日県担当者を当市に派遣して、栽培現地、関連施設、需要状況等を視察した。県の視察団のトップは農林水産部技監で、技監が現地を訪れるということは極めて稀なこと、と関係者は喜んでいた。当市も関市長自らが先頭に立ち案内するなど、力が入った視察となった。

市内の中でも特にそば作りとして評価を受けているのが、JA片貝町管内の五辺集団転作組合（勝野剛組合長）。ブロックローテーション方式による大々的なそば転作に取り組んでおり、平成8年度には農林水産大臣賞に輝いている。視察はこの五辺のブロックローテーション転作の現場、同組合所有の乾燥調整施設などを中心に〝生産〟と〝品質管理〟の両部門を視察。〝需要〟部門は、同組合生産のそば粉を使用している須坂屋で試食すると共に、須坂屋主人から感想や今後の方針等を取材した。

視察した技監は「需要に基づいた生産を行なっている小千谷市を、モデル地区として県内に紹介したい」旨の前向き発言で、当市関係者は「そばが地域振興作物の指定となるのはほぼ間違いない」とかなり強い手応えを感じとり、明るい見通しを語っている。

友田明石JA片貝町組合長は「五辺集団転作組合を初め、JA片貝町にとっては、そばは重要な作物であることから、地域振興作物の指定を強く望んでいる。幸い市も機敏な行動を取っていただき、県も異例の技監派遣、その技監も前向き発言をしてくれ喜んでいる」と語っている。


▶視察風景

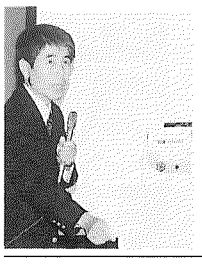

◀そば収穫風景

佐藤さん雪氷を語る
5日教育講演会で

去る11月5日(金)午後2時から片貝中学校体育館で、教育講演会が開催された。

この催しは東京片貝会・母校を励ます会と片貝中学校同窓会の共催で、毎年行われており、今年の講師は第18回卒永遠会の佐藤篤司さん（二之町出身）で「私の雪氷研究」についての講演を行った。当日会場には片貝小学校6年生と片貝中学校全校生徒の他に、来賓の東京片貝会阿部修次会長を初め多数の町民が参加し、佐藤さんのOHPを使用して、雪や氷の結晶のメカニズムを小学生にも、わかりやすく説明、そして今地球全体が温暖化しつつある話などを会場に集まった人々は熱心に聞いていた。また、佐藤さんは話の中で「私は皆さんと同じ年頃の時、将来なりたいと思った夢は総理大臣・科学者・宇宙飛行士の3つ、その夢を叶えようと努力して、二度失敗しました。初めは東京大学の入学試験日に遅刻して失敗、この時は真剣に自殺を考えたことも有りましたが、長野県の信州大学に入学して、スキーの楽しさを知り、リフトに乗り山頂に向かうとき、手のひらの雪の結晶を見て、雪と氷を研究する科学者になりたいと思い、北海道大学に進み科学者になりました。もう一つの失敗は、宇宙飛行士になれるチャンスがあったときに、提出書類の他の部分は完璧でしたが、ただ一ケ所「車酔いがひどい」と正直に書いた為なれませんでした。でも私は宇宙飛行士の夢は、今も捨てていません。なぜなら火星に行き火星の氷を色々と研究したいと思っているからです。小学生の皆さんも、中学生の皆さんも、大きな夢を持ち、その夢に向かって真剣に取り組んで下さい」と自分の夢と失敗を語り少年達を励ましていた。

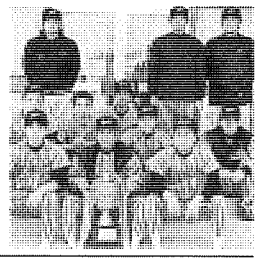
（講師略歴）
昭和40年片貝中学校卒業、昭和51年～56年北海道大学地球物理学専攻、昭和56年～59年と平成6年～8年の2回モンタナ州立大学工学部へ、帰国後、防災科学技術研究所勤務、現在は新庄雪氷防災研究支所長



野球選手権となかいが優勝

第11回片貝野球選手権大会（片貝町野球連盟の主催）が去る10月24日(日)午前8時45分から片貝スポーツ広場で開催された。この催しは野球連盟が主催する11年度最後の大会でこの一年間各大会で一位となったチームで、優勝が争われる。今年は、第35回会長杯と第30回お盆野球大会一位のとなかいチーム、第7回本田善治杯と第19回議員団杯一位のプロティンチーム、第35回節句野球大会一位のレッドスネークスチームと片貝中学校チームの4強で熱戦が繰り広げられ、となかいが準決勝でプロティンを3対1で敗り、駒を進めた決勝戦ではレッドスネークスに4対1で勝ち選手権を獲得した。優勝したとなかいチームの登録メンバーは次のとおり。

▽監督藤塚俊孝、主将安達泰昭、浅田文雄、吉原富二、藤塚文吉、金子義明、高橋悦夫、黒崎克巳、相崎純、友田理、関健典、藤塚大輔、吉原和彦、高島大樹、吉原昇、阿部重智、大渕和幸、小林重晴



敬老補助金年齢引き上げ

市は、去る11月18日午後2時から片貝支所2階ホールで片貝・高梨地区町内会長会議を開催。敬老会補助金の該当者年齢を七十五歳に引き上げてよいかどうかを中心に話し合った。市の案は、①来年度から一気に七十五歳に引き上げ、補助金も一人二千円から二千五百円とする。②七十五歳になるまで毎年一年ずつ引き上げ、補助金も毎年百円ずつアップする。

このことについて、二人の町内会長から引き上げには賛成（一人は①案、いま一人②案）の発言。又市では七十七歳（喜寿）の祝いを来年度から取り止めたい、その理由とし、高齢社会となり、男性の平均寿命が七十七歳を上回っているし、県も平成九年に取り止め、県下二十市でも実施が少なくなっている。この事については町内会長からは発言がなかった。その他、百歳以上のお祝い百歳となった時のみ。また、八十八歳以上の祝い品の伝達は国・県と同様に敬老会に合わせて行う。

読みきかせ

小学校低学年を主な対象に、絵本や紙芝居の読みきかせのボランティア実施の「読みきかせ会」の12月の活動予定は、3日(金)午後3時30分からふるさと会館、11日(土)午後1時から片貝公民館2階ホールで、クリスマス特別企画の今年最後の読みきかせ会を開催する。

なお、来年は1月、2月は休み、読みきかせ会は3月から実施。

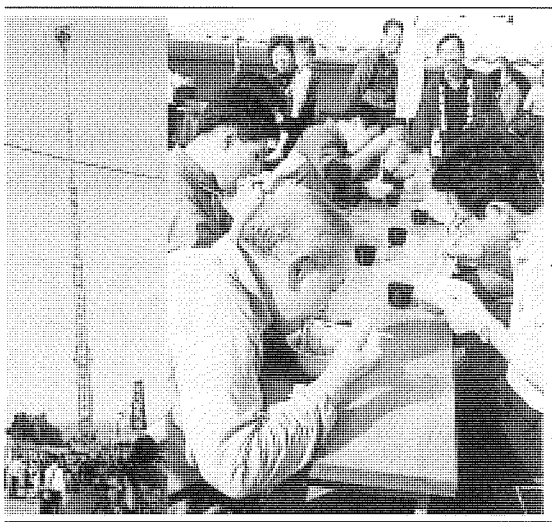
第1回ドリームカップ開催

第1回片貝ドリームカップ（少年軟式野球大会）が片貝野球連盟（太刀川忠雄会長）主催で去る11月7日(日)午前8時30分から片貝スポーツ広場で開催された。

この催しは小学校5・6年生の野球好きな少年たちの一年間の厳しい練習の成果と他チームとの交流により、親睦と技術の向上を目的とした大会で、少年野球を指導している片貝野球連盟が計画して、今年初めて開催された。

会場となった、片貝スポーツ広場には、小千谷市から4チーム＝片貝ジャガーズ、DMクラブ、和泉クラブ、東小千谷少年団、長岡市からは2チーム＝宮内フアイターズ、希望ケ丘BCの6チーム120名の未来のプロ選手を夢見る少年たちが参加して行われ、朝から野球日和にめぐまれた当日、秋晴れの青空のもと熱戦が繰り広げられ、宮内ファイターズが決勝戦で和泉クラブを6対4で敗り優勝杯を獲得し、地元片貝ジャガーズは一回戦で優勝した宮内ファイターズと対戦して、善戦空しく2対5で敗れ二回戦に駒を進めることが出来なかった。「来年は優勝を目標にガンバル」と地元の少年と指導者。

JA片貝町収穫感謝祭
新そばまつりに人気集まる



JA片貝町（友田明石組合長）は収穫感謝祭を10月31日(日)午前9時30分から午後4時まで、生産課広場で開催された。

当日は好天に恵まれ「新そばまつり」では、JA片貝町管内の五辺集団転作組合が収穫したばかりのそば粉を、毎年手作りそばを開催している鴻巣有志が打ち一人前五百円のザルそばを販売したところ、四百食がさばけて大人気。そばの早食競争も二回行われ、一回目の大会では友田善意さん（町裏）が見事一位となり豪華賞品を獲得した。

そのほかコシヒカリや地場秋野菜、果物、秋植球根の即売所も多くの人。農機具、暖房器具の展示即売も行われた。また「お楽しみコーナー」の二万二百五十円の野菜と果物で作った宝船の値段当ては正解者がなく正解にもっとも近い、5名が賞品として、宝船の野菜と果物を持ち帰った。特設ステージでジャンケン大会が三回行われ勝者に当日会場のみ有効の商品券と清酒が渡された。ポニーに乗って記念撮影など多彩。午後一時から小千谷地域消防本部の協力で行われた、消防ハシゴ車搭乗体験に希望者を募ったところ大勢の申し込みがあったため、抽せんにより30名（小学生以下）が約30mの高さから片貝町の風景を楽しんでいた。最後に行われた、餅つき大会では、できたての餅2コ（きな粉・あんこ）が来場者に無料でふるまわれ、長い列となり大賑い。

また、収穫感謝祭記念ゲートボール大会は午前8時30分から、JA片貝町生産課コートと屋敷ふれあい広場特設コートの二会場に10チーム65名が参加して熱戦が繰り広げられ、全戦全勝の成績で、寺町ヤヨイチームが優勝した。

▼オール1貯金＝11月11日は平成の年号も入れると1の数字が6個並ぶ日で各地で記念押印などが話題になっていた。JA片貝町でもこの日1が7個並ぶビックコースと6個並ぶミニコースの『オールNo.1定期貯金』を特別企画したところ、当日金融課の窓口には多数の人々が訪れ、当日用意しておいたオールナンバーワン定期記念品のコンパクトカメラ百個が、早々になくなり急遽取り寄せるほどの大繁盛。担当者は「ビックコースとミニコース両方で百三十口の定期貯金がありこの特別企画は大成功でした」とニコニコ笑顔で語っていた。

▼10大ニュース募集＝JA片貝町の有線放送は年末恒例の「今年の片貝町10大ニュース」を募集中。平成11年1月からJA片貝町管内で発生したニュースを町民から広く募集して12月31日の有線放送として町民に知らしめるもので、大晦日の恒例行事となっている。小紙をめくってみると、米政策による減反問題、統一地方選挙、介護保険制度、毎年変わる片貝支所長、本田善治翁胸像完成、伸竹会のふれあい公園ボランティア活動、消防ポンプ操作県大会へ片貝チーム、東京片貝40周年、四尺玉町民総参加、JA片貝町高島屋でPRなどがある。「応募者は所定の用紙に記入して12月15日までに提出して下さい。多くの応募をお待ちしています。応募者には粗品進呈」と担当者。

▼年末感謝キャンペーン＝JA片貝町では毎年恒例になっている年末感謝キャンペーンを今日から31日まで実施、新定期預金二十万円毎に抽選券一枚、主食用米購入千円毎に補助券一枚（五枚で抽選一回）、Aコープ店の現金売り千円毎に補助券一枚、JA給油所ではガソリン十リットル、軽油十五リットル毎に補助券一枚。

抽選会は昨年と異なり12月30日(木)午前10時～午後6時まで、31日午前10時～午後4時までの二日間で、一等二百本、二等二百本、三等二百本、四等四百本で空クジナシで豪華賞品が用意。

佐藤量八氏逝去

片貝町二之町出身で港区赤坂小学校長を退職後元東京片貝会会長として昭和四十年後半から昭和六十二年まで活躍、この間会報を発刊、母校を励ます会を設立、現在も続いている講師派遣や小・中学校に対する図書購入費の寄贈を開始するなど、郷土との関係に大きな役割を果たしてきた佐藤量八氏が去る十四日心臓発作により死去した。行年八十九歳（武蔵野市吉祥寺東町三―二二―二）尚葬儀は十九日東京で執り行われた。

佐藤氏は故浅田壮太郎先生との親交も深く最初の出会いは大正十五年の高田師範学校入学のときで、当時浅田先生は師範付属小学校に抜擢されて先生をされていた。

その後浅田先生は四か年の教師生活に区切りをつけ、考えるところあって関西の禅寺に飯田檔隠老師を頼って修業、その後高槻の少林窟道場に移られたが、そこへも佐藤氏は浅田先生を尋ねている。

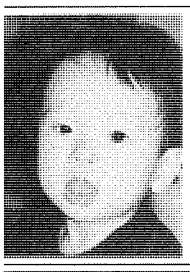
さらに浅田先生が東京に移られ大河内子爵をはじめとする著名人とともに月刊誌「禅の友」を昭和十一年創刊、これは敗戦前年まで八年間続いたが、この間佐藤氏は仕事のかたわら雑誌の広告取りや校正を手伝うなど、文字通り親身も及ばぬ協力をし助手的な役割を果たした。

佐藤氏も時折この「禅の友」に良寛のことや関山国師について調査発表をしているが、浅田先生は容赦なく佐藤氏の文章に批判を加え書直をさせられるので、その当時は随分閉口したがお陰で文章の書き方、編集、印刷にいたるまで知識を身につけることができたと述懐している。

会長退任後も時々片貝を訪れてはふるさと会館に宿泊し、周辺の想い出の地を尋ねたり資料の収集にあたっている姿が見えた。

片貝の人たちにとって忘れられないのは、小宮治郎さんを聞き手として毎月一回、片貝農協の有線放送を通じて浅田先生が「やせかまど」の解説をしていたテープを基に「やせかまど」の解説編を片貝町郷土史研究会から刊行されたことで、特に口語訳や最後にある「ことば略解」は多くの研究者の参考になる業績である。心からご冥福をお祈りしたい。

ハローベイビー



○宮島流星（みやじまりゅうせい）ちゃん（四之町）
パパ哲哉さん（29才）
ママ亜由美さん（29才）
第1子長男
平成10年8月19日生
現在の体重10.5kg身長81cm

Q名前の由来
A読みやすく、響きがよく、個性的な名前にと思い名付けました。

Qお子さんの様子
Aおもちゃで遊ぶというよりも、次は何をいたずらしようかと、家中荒らし回っています。でもちょっぴり泣き虫です。

Qどんな子に育って欲しいですか
A優しく、たくましい子に育って欲しいと思います。

訂正

先月号二面ハローベイビー門倉準汰ちゃんは門倉隼汰ちゃんの誤りでした。訂正してお詫びいたします。